

理数科断層班がSSH研究発表会で奨励賞

スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会（文部科学省、科学技術振興機構主催）が8月7日～28日にオンラインで開催されました。全国222校が参加する中、本校理数科3年断層班が7位～12位に相当する「奨励賞」を受賞しました。

断層班は、湧き水を用いて鯖江断層の規模とルートを探る研究を発表。「すりばちやいと」で有名な鯖江市の中道院の湧き水と越前市村国の「お助けの清水」に注目し、継続的な水温計測などを行いました。

この研究の目的には、「断層を中心とした一帯は地震活動の空白域として注目されている。そこで、この不明な部分を少しでも解明し、防災対策に繋げていきたいと考えた。」とあり、地域に根ざした研究という意味でも、今後も研究の継続が期待されます。



入賞した理数科3年断層班メンバー
 入江さん 角木さん 加賀川さん 石塚さん
 島田さん 市橋さん 北尾さん

発表に使用したポスター
 湧き水を用いて鯖江断層の規模とルートを探る

～ 発表者の感想 ～

研究で有意義な時間を過ごすことができ、今後に生かしたいと思う（島田さん）。地震について興味を持つことができ、今後の防災対策についても考えたい（市橋さん）。活断層は私たちの身近にあり、いつ大きな地震が起きてもおかしくないと伝えることで、地域の方々の防災意識向上に繋がりたい（加賀川さん）。私たちの活動を通して断層の存在を知ってもらい、みんなの防災意識を高めたい（石塚さん）。湧き水と断層の関係を追及することで、ルートの一部を解明していくのが楽しかった（入江さん）。断層をめぐっての山歩きは初めてのことで楽しい経験だった（角木さん）。フッ化物イオン濃度に着目し鯖江断層の規模やルートを調べる研究が自分にとっても有意義な経験となりうれしい（北尾さん）。